

マヤ文明 前1000年頃に公共祭祀建築 グアテマラのセイバル遺跡で供物発掘

茨城大学・人文学部・教授 青山 和夫

科学研究費助成事業 (科研費)

古典期マヤ人の日常生活と社会経済組織の基礎的研究
(2005-2008 基盤研究 (B))

マヤ文明の政治経済組織の通時的変化に関する基礎的研究
(2009-2013 基盤研究 (B))

環太平洋の環境文明史
(2009-2013 新学術領域研究 (研究領域提案型))



図1 セイバル遺跡出土の緑色の磨製石斧の供物 (前1000年頃)



図2 マヤ文明のセイバル遺跡の層位的な発掘調査

マヤ文明の起源について、従来はマヤ低地の農民が土器を使い、紀元前1000年頃に主食のトウモロコシ農耕を基盤にした定住村落を営み始めてからマヤ文明が徐々に発展し、前800年以降に公共祭祀建築が建てられたと考えられていた。

中米グアテマラのセイバル遺跡において大規模で層位的な発掘調査を行い、56点という豊富な試料の放射性炭素年代により詳細な編年を確立。マヤ低地で最古の公共祭祀建築と公共広場は、前1000年頃に建設されており、従来の学説よりも少なくとも200年ほど古いことがわかり、米国の科学雑誌サイエンスに発表。

公共広場からは、前1000年頃の公共祭祀の一環として埋納されたグアテマラ高地産の翡翠を含む、マヤ低地で最古の緑色の磨製石斧の供物を発見。オルメカ文明などのマヤ文明と関わったメソアメリカの他の文明との関係を再考する必要が生まれた。

今後は、セイバル付近の湖においてマヤ地域で初めて発見した年縞 (湖底に年々一つ形成される「土の年輪」) から環境変動を高精度に復元し、マヤ文明の盛衰との相互関係を探求すると共に、セイバル周辺部を調査して全社会階層の研究を進める。

○平成25年4月26日米科学誌「サイエンス」掲載